

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄							備考	
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ	ガッコウホウジン ナカニシガクエン								
設置者	学校法人 中西学園								
フリガナ	ナゴヤガクテイダイガクダイガクイン								
大学の名称	名古屋学芸大学大学院 (Graduate School of Nagoya University of Arts and Sciences)								
大学本部の位置	愛知県日進市岩崎町竹ノ山57								
大学の目的	<p>本学は、教育基本法の本質にのっとり学校教育法の定めるところにより、学術の中心として広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究し、国際社会の一員として人類社会の発展に寄与できる知的、道徳的及び応用的能力を有する個性豊かな人材を育成するとともに、文化の創造と人類の福祉に貢献することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>本研究科では、看護の現象を多角的な視点で捉え、高い倫理観とともに、高度な教育・研究能力や看護実践能力のもと、様々な課題を探究することにより看護学の発展と看護の質向上に貢献できる看護専門職を育成することを目的とする。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing) 看護学専攻 (Master's Course in Nursing) 計	2 6 6	6 6 6	— — —	12 12 12	修士 (看護学) (Master of Science in Nursing)	令和5年4月 第1年次	愛知県名古屋市中区 新栄1-9-6	
【基礎となる学部】 看護学部看護学科 第14条特例の実施									
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	看護学研究科看護学専攻 (修士課程)	講義	演習	実験・実習	計	30単位			
		22科目	12科目	0科目	34科目				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		計	14人 (14)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	15人 (15)	0人 (0)	7人 (7)
	既設分	栄養科学研究科 栄養科学専攻 博士前期課程	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)
		栄養科学研究科 栄養科学専攻 博士後期課程	6 (6)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)
		メディア造形研究科 メディア造形専攻 修士課程	10 (10)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
		子どもケア研究科 子どもケア専攻 修士課程	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	4 (4)
計		22 (22)	10 (10)	10 (10)	0 (0)	42 (42)	0 (0)	— (—)	
合計		36 (36)	11 (11)	10 (10)	0 (0)	57 (57)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員		6人 (6)		1人 (1)		7人 (7)		
	技術職員		0人 (0)		1人 (1)		1人 (1)		
	図書館専門職員		1人 (1)		1人 (1)		2人 (2)		
	その他の職員		0人 (0)		5人 (5)		5人 (5)		
計		6人 (6)		3人 (3)		9人 (9)			
図書館専門職員専任1名は看護学研究科の専任									

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	2,150 m ²	84,686.36 m ²	0 m ²	86,836.36 m ²	名古屋外国語大学 (必要面積43,960m ²) と共用				
	運 動 場 用 地	0 m ²	61,718.00 m ²	0 m ²	61,718.00 m ²					
	小 計	2,150 m ²	146,404.36 m ²	0 m ²	148,554.36 m ²	看護学部 借用面積：2,150m ² 借用期間：30年				
	そ の 他	0 m ²	6,742.11 m ²	0 m ²	6,742.11 m ²					
	合 計	2,150 m ²	153,146.47 m ²	0 m ²	155,296.47 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計m ²	申請大学院専用面積 439.98m ² を含む 名古屋外国語大学 (必要面積20,524m ²) と共用				
		42,817.70 m ² (42,817.70m ²)	18,296.92m ² (18,296.92m ²)	43,523.74m ² (43,523.74m ²)	104,638.36m ² (104,638.36m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	41 室	77 室	20 室	13 室 (補助職員 4人)	5 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		看護学研究科看護学専攻(修士課程)				
				15 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科、学部単位での 特定不能なため、大学 全体の数		
	看護学研究科	370,500 [80,200] (316,020 [73,200])	14,600 [12,550] (14,030 [11,613])	13,100 [11,500] (12,809 [11,264])	15,500 (8,743)	5,874 (5,546)	85 (70)			
	計	370,500 [80,200] (316,020 [73,200])	14,600 [12,550] (14,030 [11,613])	13,100 [11,500] (12,809 [11,264])	15,500 (8,743)	5,874 (5,546)	85 (70)			
図 書 館		面 積		閲覧席席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		4,750.51m ²		748席	450,000冊					
体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		4,179.57m ²		テニスコート6面 ゴルフ練習場30打席						
経 費 積 立 方 法 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・データ ベースの整備費 (運用コスト含む) を含む。
		教員1人当り研究費等		600千円	600千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		800千円	800千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		図書購入費	10,000千円	1,200千円	1,200千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	33,396千円	10,000千円	5,000千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	学生1人当り 納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,055千円	955千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	名古屋学芸大学大学院								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	栄養科学研究科 栄養科学専攻	年	人	年次 人	人		倍		愛知県日進市 岩崎町竹ノ山 57番地	
	博士前期課程	2	5	－	10	修士(栄養科学)	1.70	平成18年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(栄養科学)	1.33	平成20年度		
	メディア造形研究科 メディア造形専攻									
修士課程	2	5	－	10	修士(メディア造形)	0.70	平成18年度			
子どもケア研究科 子どもケア専攻										
修士課程	2	5	－	10	修士(子ども学)	0.10	平成23年度			

既設大学等の状況	大学の名称	名古屋学芸大学							※平成31年度入学定員増(20人) ※平成31年度入学定員増(10人)		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地	
		年	人	年次人	人		倍				
	管理栄養学部						1.09				
	管理栄養学科	4	160	—	640	学士(管理栄養)	1.09	平成14年度		愛知県日進市 岩崎町竹ノ山 57番地	
	メディア造形学部						1.06				
	映像メディア学科	4	120	—	480	学士(映像メディア)	1.05	平成14年度			
	デザイン学科	4	90	—	360	学士(デザイン)	1.00	平成14年度			
	ファッション造形学科	4	60	—	240	学士(ファッション造形)	1.16	平成14年度			
	ヒューマンケア学部						1.01				
子どもケア学科	4	220	—	880	学士(子ども学)	1.01	平成17年度				
看護学部						1.06		愛知県名古屋市中区 三の丸4丁目1番1号			
看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.06	平成30年度				
既設大学等の状況	大学の名称	名古屋外国語大学大学院									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地	
		年	人	年次人	人		倍				
	国際コミュニケーション研究科										
	国際コミュニケーション専攻										
	博士前期課程	2	20	—	40	修士(英語 ・英語教育)	0.75	平成9年度		愛知県日進市 岩崎町竹ノ山 57番地	
	博士後期課程	3	5	—	15	博士(英語学 ・英語教育学)	0.53	平成11年度			
	大学の名称	名古屋外国語大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地
		年	人	年次人	人		倍				
外国語学部						0.97					
英米語学科	4	400	—	1,600	学士(英語)	0.98	昭和63年度	※平成31年度より学生募集停止			
英語教育学科	4	—	—	—	学士(英語教育)	—	平成20年度				
フランス語学科	4	75	—	300	学士(フランス語)	0.85	昭和63年度				
中国語学科	4	65	—	260	学士(中国語)	1.01	昭和63年度	※平成31年度より学生募集停止			
日本語学科	4	—	—	—	学士(日本語)	—	平成11年度				
世界教養学科	4	—	—	—	学士(世界教養)	—	平成27年度				
現代国際学部						1.04		愛知県日進市 岩崎町竹ノ山 57番地			
グローバルビジネス学科	4	99	—	396	学士(国際経営)	1.06	平成16年度				
現代英語学科	4	100	—	400	学士(国際学)	1.04	平成16年度				
国際教養学科	4	100	—	400	学士(国際学)	1.03	平成25年度				
世界共生学部						0.98					
世界共生学科	4	100	—	400	学士(世界共生)	0.98	平成29年度	※平成31年度より学生募集停止			
世界教養学部						1.04					
世界教養学科	4	100	—	400	学士(世界共生)	1.06	令和元年度				
国際日本学科	4	60	—	240	学士(世界共生)	1.02	令和元年度				

附属施設の概要	<p>名称：総合グラウンド 目的：授業、課外活動、厚生補導 所在地：日進市岩崎町阿良池 設置年月日：平成9年8月 規模：土地 23,271㎡</p>
	<p>名称：南山グラウンド（テニスコート、ゴルフ練習場） 目的：授業、課外活動、厚生補導 所在地：日進市米野木町南山 設置年月日：平成4年5月 規模：土地 10,001㎡</p>
	<p>名称：鶴里グラウンド（ゴルフ練習場） 目的：課外活動、厚生補導 所在地：土岐市鶴里町細野平蔵連 設置年月日：平成6年3月 規模：土地 25,495㎡</p>
	<p>名称：テニスコート 目的：授業、課外活動、厚生補導 所在地：日進市岩崎町竹ノ山 設置年月日：平成9年3月 規模：土地 2,951㎡</p>
	<p>名称：体育館 目的：授業、課外活動、厚生補導 所在地：日進市岩崎町竹ノ山 設置年月日：平成5年1月 規模：建物 3,550.27㎡</p>
	<p>名称：看護学部キャンパス体育館 目的：授業、課外活動、厚生補導 所在地：名古屋市中区三の丸 設置年月日：平成10年1月 規模：建物 629.30㎡</p>
	<p>名称：アトリウム 目的：厚生補導施設 所在地：日進市岩崎町竹ノ山 設置年月日：平成5年1月 規模：建物 693.47㎡</p>
	<p>名称：コミュニケーションプラザ 目的：厚生補導施設 所在地：日進市岩崎町竹ノ山 設置年月日：平成16年3月 規模：建物 2,429.41㎡</p>
	<p>名称：健康・栄養研究所 目的：栄養科学分野の研究、委託研究、調査研究 所在地：日進市岩崎町竹ノ山 設置年月日：平成15年4月 規模：建物 100㎡</p>
	<p>名称：子どもケアセンター 目的：地域子育て支援及び学生教育実践 所在地：日進市岩崎町竹ノ山 設置年月日：平成18年4月 規模：建物 500㎡</p>
<p>名称：第2多目的ホール 目的：授業、課外活動、厚生補導 所在地：日進市岩崎町竹ノ山 設置年月日：平成23年4月 規模：建物 646.20㎡</p>	
<p>名称：第3多目的ホール 目的：授業、課外活動、厚生補導 所在地：日進市岩崎町竹ノ山 設置年月日：平成27年12月 規模：建物 772.80㎡</p>	

教育課程等の概要															
(看護学研究科 看護学専攻 修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	基盤研究科目	看護研究方法論	1前	2			○			1					
		看護理論	1後	2			○								兼2
		英語文献クリティーク	1前		2			○							兼1
		多変量解析論	1後		2			○							兼1
	小計（4科目）		—	4	4	0	—			1	0	0	0	0	兼4
	看護実践科目	看護教育方法論	1前	2			○			1					
		看護倫理学	1後	2			○			1					兼1
		看護コンサルテーション論	1前		2		○			1					
		看護マネジメント論	1後		2		○			1					
		看護フィールド演習	1前		2			○		2					
		多職種連携方法論	1後		2		○								兼1
	小計（6科目）		—	4	8	0	—			5	0	0	0	0	兼2
	看護関連科目	看護病態生理学	1前		2		○				1				
		看護臨床薬理学	1後		2		○				1				
		家族看護学	1前		2		○								兼1
		国際保健学	2後		2		○			1					
保健医療福祉行政論		2前		2		○			1						
看護海外研修		2前		2			○		1						
小計（6科目）		—	0	12	0	—			3	1	0	0	0	兼1	
計（16科目）		—	8	24	0	—			8	1	0	0	0	兼7	
専門科目	発達看護学領域	母性・助産看護学特論	1前		2		○			1					
		母性・助産看護学演習	1後		4			○		1					
		小児看護学特論	1前		2		○			1					
		小児看護学演習	1後		4			○		1					
		成人・老年看護学特論	1前		2		○			2					
		成人・老年看護学演習	1後		4			○		2					
	小計（6科目）		—	0	18	0	—			4	0	0	0	0	兼0
	広域看護学領域	精神看護学特論	1前		2		○			2					
		精神看護学演習	1後		4			○		2					
		地域・在宅看護学特論	1前		2		○			3					
		地域・在宅看護学演習	1後		4			○		3					
	小計（4科目）		—	0	12	0	—			5	0	0	0	0	兼0
	発展看護学領域	災害看護学特論	1前		2		○			1					
		災害看護学演習	1後		4			○		1					
		看護管理学特論	1前		2		○			1					
		看護管理学演習	1後		4			○		1					
看護教育学特論		1前		2		○			1						
看護教育学演習		1後		4			○		1						
小計（6科目）		—	0	18	0	—			3	0	0	0	0	兼0	
計（16科目）		—	0	48	0	—			12	0	0	0	0	兼0	
特別研究	特別研究Ⅰ	1後	2				○		14	1					
	特別研究Ⅱ	2通	6				○		14	1					
	計（2科目）		—	8	0	0	—			14	1	0	0	0	兼0
合計（34科目）		—	16	72	0	—			14	1	0	0	0	兼7	
学位又は称号		修士（看護学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
所定の在学年限を満たし、以下の所定単位を修得し、且つ修士論文を提出の上、審査を経て最終試験に合格すること。 所定単位は、共通科目のうち必修科目8単位、選択科目4科目8単位以上（うち看護関連科目から2科目4単位以上）、また専門科目の各領域から同一分野の特論及び演習の計6単位以上に加え、特別研究8単位を履修し、合計30単位以上を取得すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学年の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科 看護学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護研究方法論	本科目では看護における現象や問題、そこに潜む法則性を明らかにするための研究のプロセスや科学的アプローチについて教授する。特に、研究疑問から研究テーマの焦点化のプロセス、研究倫理にのっとった量的・質的なアプローチについて学ぶ。さらに、論文の作成に求められる、論理的な視点や論文における記述や結果の示し方、考察について学ぶ。具体的には、文献検索や論文クリティークに取り組み、看護学研究を実際に進めていく上での方法を身につける。	
	看護理論	(概要) 看護学および科学哲学の歴史を振り返り、卓越した看護実践の基盤となる看護学の理論体系および看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深め、看護理論を実践および研究に活用する力を養う。(科目責任者:木下幸代) (オムニバス方式/全15回) (17 木下 幸代/10回) オリエンテーション、看護学、看護理論についての概説・討議、看護学・看護理論の歴史、看護理論の構成要素、ケアリングの概観、病みの軌跡モデルの基礎的理解、病みの軌跡モデルの展開、看護理論の概要と評価、まとめ(看護理論の実践への活用)。 (18 大石 ふみ子/5回) 大理論と中範囲理論、中範囲理論の看護への活用、プレゼンテーションとディスカッション、看護理論の概要と評価。	オムニバス方式
	英語文献クリティーク	英文に論述されている内容を把握、理解し、的確に英語文献のクリティークを行うための能力を養うことを目指す。具体的には、内容理解の基礎を成す英文法、論文特有の英語表現、研究目的、方法、結果、考察など論文の各項目に即した語句を習得し、英語文献を読み込むための指導を行い、看護学の英語文献を読み解きクリティークに取り組む。各学生がそれぞれの専攻で培ったクリティーク能力を活かして英語文献を論評する訓練を行い、日本語論文のみならず、研究に有用な資料として英語文献を活用できる能力を身に付けることを目標とする。	
	多変量解析論	看護分野を含む医学研究では疾病や健康状態を客観的に評価することが重要であり、多変量解析による分析が必要とされることが多い。これらの知識と技術は看護師等、医療専門職には欠かせないものとなっている。 本講義では、多変量解析を行う上で必要な統計学の基礎、および比較的使用頻度が高い多変量解析の方法について学ぶ。また、統計解析ソフトの一つであるSPSSを用いた解析の実例などを紹介することで、具体的な解析方法や結果の解釈の仕方についても解説する。	
	看護教育方法論	本科目では、時代とともに変化した看護教育制度と教育課程について学修するとともに、看護教育の特徴を理解する。 看護教育・保健医療福祉の場における看護職者育成に向けて、効果的な授業設計、教育方法や評価の方法を習得するとともにこれらを支える諸理論についても理解を深める。また、社会のニーズに応えられる看護専門職の育成と役割拡大のための継続教育、生涯教育の在り方を学修し、専門職としてのキャリア開発について探究する。さらに、看護実践の質を高めるための方法や看護教育をめぐる現代の課題とその解決方法を探究する能力を養う。	
	看護実践科目		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目 看護実践科目	看護倫理学	<p>(概要)</p> <p>臨床における様々な倫理的問題・葛藤を取り上げ、患者や家族、医療従事者間での倫理的調整を行うための基礎的知識を学ぶ。倫理の原則、生命倫理と看護倫理に関する動向、実践における倫理的諸問題などについて学び、看護専門職としての倫理観や倫理的態度について考える能力を養う。さらに医療チームでの倫理的調整を行うための知識を学修する。</p> <p>これらの知識を活用して事例から倫理的課題を分析し、医療チームにおける看護師の役割と効果的な介入および意思決定支援について考察する。学修を通して看護専門職としての倫理的感受性を高め、倫理的課題を調整する能力を養う。(科目責任者:屋良朝彦)</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(16 屋良 朝彦/10回)</p> <p>全体の授業の流れと課題についてのオリエンテーションを1コマ。倫理理論およびニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言などについて1コマ。医療倫理の4原則についての解説を1コマ。先端医療における倫理指針について1コマ。インフォームドコンセントと意思決定支援について1コマ。具体的な倫理的問題について、「がん告知」や「出生前診断」などを取り上げた解説に2コマ。看護研究倫理、特に個人情報保護に関する倫理について2コマ。倫理カンファレンスや意思決定支援に1コマ担当する。</p> <p>(2 白鳥 さつき/5回)</p> <p>後半の5コマは、前半の講義による倫理に関する基礎的知識を活用した医療チームにおける倫理的調整、臨床における倫理的問題の事例分析を担当する。</p>	オムニバス方式
	看護コンサルテーション論	<p>コンサルテーションのために基本的に必要な知識や技術について理解し、コンサルティとコンサルタントの関係性構築のプロセスについて学修を深める。これらをもとに、保健・医療・福祉領域においてより質の高い援助を提供するために、看護管理者、看護スタッフ、教育現場が直面する課題を明確にし、解決に向かう方法を検討する。さらに、コンサルテーションの知識や技術の活用について、文献や院生が体験した事例を分析・検討する。また、講義、討論、およびロールプレイ、コンサルテーション実践事例に基づいた学修などを取り入れる。</p>	
	看護マネジメント論	<p>看護マネジメント論は看護実践において、新人看護師から熟達者まですべての職位が必要とする知識と技術である。看護におけるマネジメントの在り方は、社会の変化に伴う保健・医療・福祉の動向に大きく影響を受けてきた。本科目ではこれらに伴う看護管理の変遷を概観し、看護管理が担う役割について学修する。さらに、組織においてヒト・モノ・カネ・情報を有効に活用しながら質の高いサービスを提供するための知識と技術を修得し、能動的かつ創造的にマネジメントに関わる姿勢を養う。</p>	
	看護フィールド演習	<p>看護実践は、これまでの先行研究で明らかにされた科学的根拠をもとに高度な専門的知識を探究することから始まる。また、看護実践は、看護問題や課題をアセスメントし高い倫理観のもと関連する保健・医療・福祉・教育に携わる職種との連携により、アプローチするための能力を高めることが求められている。本科目では、看護実践能力を高めるために、看護問題や課題解決に向けた取り組みを実際の看護の場であるフィールドに出で実施し、自己の取り組みを評価することにより課題を明らかにし看護の質向上に貢献できる能力を養う。(科目責任者:安藤純子)</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(②安藤純子/9回)</p> <p>前半9コマでは、看護現場における看護課題に向き合い、課題解決のための対応についてスタッフと共にディスカッションを行い、計画、実施し、帰納法や演繹法を用いて振り返りや再アプローチを行う。課題解決に向けた判断と行動方法について学修を深めることへの支援や看護現場との調整を担当する。</p> <p>(①白井千津/5回)</p> <p>後半4コマでは、多職種との連携・協働について学ぶため他部門とのケースカンファレンスに参加し臨地での多職種との連携・協働を学ぶ。課題解決に向けての計画、実践の過程を振り返り考察を深め、発表に向けた準備と発表への指導を担当する。</p> <p>(②安藤純子、①白井千津/1回)</p> <p>看護実践における課題解決に貢献できる実践能力に関する自己の学修課題を明確化するためにオムニバス担当が共に関わる。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通科目	看護実践科目	多職種連携方法論	我が国では、超高齢社会を迎え、医療のあり方は多様化、複雑化している。地域社会の人々のケアの質を向上させるために、保健・医療・福祉の多職種専門職者と信頼関係を構築し、連携及び協働することができる能力を身につける。多職種連携における自己の役割と他職種の役割理解、連携のためのアサーティブコミュニケーション能力と、専門職としての高い倫理観とプロフェッショナルリズムを身につけ、自らを省察し課題を明らかにする。具体的には講義、グループワークでの事例検討等を通して、課題解決に向けて、積極的にコミュニケーションを図り、他職種の役割及び視点、さらに生活者としての患者・家族のニーズや社会背景を理解し、グループ討論することで、多職種連携の意義を理解する。	
	看護関連科目	看護病態生理学	患者の病態生理学的に捉えることは予測を持った観察や、適切な看護実践に繋がる。看護職者は、より体系的に人間の身体を理解し、病態生理を看護実践に生かすべく知識を獲得する必要がある。解剖・生理・病理を基にして病態に関連づけた知識を身につけることで、病態生理学的推論力を働かせる。すなわち、科学的根拠に基づいた高度な知識、判断力を身につけることで、より専門性の高い看護実践が可能となる。本講義を通じて、観察した患者の状態から病態をアセスメントし、看護計画を立てていく際に必要となる病態生理学の知識や理解を深める。	
		看護臨床薬理学	薬物は疾病の原因を取り除くだけでなく、症状を和らげることにより生命を守る一方で、副作用や有害事象を引き起こし、人体を苦しめることがある。看護職者は患者に直接、与薬し、その治療効果や副作用の発現等を最も眼前で観察する存在である。そのため、薬理学・臨床薬理学の知識は、誤薬の防止、治療効果の判定、有害事象の早期発見と予防、服薬アドヒアランスの向上、残薬を減らすための取り組みなど、服薬や治療に関する患者・家族への指導・説明において重要となる。看護職者が薬物治療を受ける患者の病態を深く理解し、薬物治療に精通した実践能力を獲得する。すなわち、与薬や治療管理に関する高度な知識、判断力を身につけることで、より専門性の高い看護実践が可能となる。 本講義を通じて、与薬の実践者として看護職者に求められる薬物治療の知識や理解を深める。	
		家族看護学	昨今のわが国の超高齢社会の到来は医療制度にも大きな影響をもたらし、病院などの施設で受ける医療中心の時代から、地域・在宅における療養へと変化してきているが、その中で“家族”に期待される役割はますます大きくなっている。しかし、一方で、わが国における“家族”の様相は、核家族の増加や晩婚化、女性の社会進出の推進など、家族の価値観や家族形態に影響を与える様々な出来事により大きく変化し、上記の医療事情への対応が困難な事例も少なくない。 家族看護学は、“家族”を一つの単位として看護援助の対象ととらえ、看護過程を展開する。家族アセスメントから看護介入に至る過程について概説し、具体的な家族看護問題を有する事例の分析によって、家族看護への理解と実践能力の獲得を目指す。	
		国際保健学	国際保健学とは、社会開発・経済開発の過程で生じる健康問題とその多面的要因を研究し、実行可能な対策を考える、社会医学の一分野である。開発の過程では、社会と人間との相互作用により、さまざまな要因が健康に影響している。人々の健康が損なわれる時、病原体などの直接的原因や、栄養状態などの間接的原因に加えて、経済的・社会的・文化的要因が遠隔的に作用している。健康を改善するには、医学・保健医療のみならず、社会学・文化人類学・経済学など、いろいろな専門分野の知識・技術を取り入れ、総合的なアプローチを生み出していく必要がある。とくに、開発途上国では、保健医療分野に投資できる資金や人材が限られているうえ、保健医療政策を実施する仕組みに問題のあることが多い。 これらの問題点にどのように対応して、最大多数の人々の健康を改善していくのか、さまざまな国際的取組がなされてきた。 多数の国際機関、政府開発援助機関、非政府機関(NGO)などが、保健医療分野の開発協力に取り組んでいる。 この授業では、国際保健学分野の主要な課題について、開発途上国における具体的事例を示しながら解説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護関連科目		
	保健医療福祉行政論	<p>近年における看護職者には、従来の保健指導や対象集団への組織的アプローチに加えて、保健・医療・介護・福祉施策に関する健康政策・健康事業の企画から評価について学ぶことにより、関係機関と連携・調整し、実践から得られた結果を評価して政策・事業の改善を図るという一連のプロセスを遂行する能力が求められている。</p> <p>本科目では、このような社会の要請に基づいて能力を発揮できる看護職者を育成するために、それらの基礎となる各種の法律や制度について理解を深めることに重点を置いて講義を進める。</p>	
	看護海外研修	<p>本科目では、国王が医療看護を擁護し、ナースプラクティショナー制度をいち早く取り入れている「タイ王国」の医療・看護の制度や、家族のつながりを大切にすることを学び、国際的な視野を広げる。本研修から、日本に在住するアジア系の外国人の文化や価値観を踏まえた看護や支援について考察を深めるとともに、タイにおける看護教育の歴史的な背景を知るとともに教育制度、教育の特徴について学び、看護教育への探究心を培う。</p>	
専門科目	発達看護学領域		
	母性・助産看護学特論	<p>本科目では性差による生物学的、生理学的、社会学的な問題や知見にふれ、性差を考慮した看護課題について探究する。</p> <p>さらに、女性の健康援助に関連する様々な概念、我が国や世界における母性看護に関する政策課題、女性の健康援助に対する具体的な援助法など視点を絞り文献の講読をする中から女性の健康援助について討議する。</p> <p>特に、近年の母子を取り巻く環境の変化により、女性に起こっている様々な問題状況は、健康な子どもを産み育てるための支援という従来の母子看護の考え方だけでは捉えきれず、このケアニーズに対応するために新たな枠組みが必要となってきた。このような状況を踏まえ、現代社会で起こっている女性の健康問題を取り上げ、その研究・看護実践の課題と支援の方略について探究する。</p>	
	母性・助産看護学演習	<p>本科目では、周産期およびそれぞれのライフステージにある女性に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果のまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した母性看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークの課題を明確にし、その課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。</p> <p>テーマを取り上げた理由を明確にししながら、さらに研究的に取り組みながらゼミ形式で討議し、テーマについて深めながら特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げ模擬授業計画を立案し、実施し評価を受けることで教育能力を養う。</p>	
	小児看護学特論	<p>子どもとその家族がおかれているさまざまな状況を理解し、特に子どもの倫理的側面として、児童の権利条約の理念に基づいた健康生活について多様な視点で論議し、子どもの生きる権利の擁護に関する課題と方法について探究する。また、子どもの成長発達の視点、生活リズム形成等の理解を深め、生活者としての子どもの存在を理解する。子どもに関連した内外の最新の文献を検索し、小児看護学研究の動向を探るとともに小児看護の特徴を探究する。</p>	
小児看護学演習	<p>本科目は、小児看護学特論の講義内容を深めるため、また効果的な看護の援助方法を構築・評価するためフィールドワークの実践を通して小児看護の特徴や課題について学修する。看護研究方法については、文献クリティーク、ディスカッションに重点を置き、自己の課題の明確化を図る。</p> <p>自己の課題の明確化、フィールドワークの課題の明確化をふまえて、課題解決のための計画立案・実施、結果のまとめ、報告書の作成の過程を経験する。特論で学修した小児看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークでは明確化した課題に取り組み、研究能力、看護実践能力を培う。課題解決に向けて研究的に取り組み、テーマをさらに深めることで特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げる。フィールドワークで得た結果の一部を取り上げ、模擬授業を計画・立案し、実施し評価を受けることで教育能力の向上を図る。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	発達看護学領域	<p>成人・老年看護学特論</p> <p>(概要) 成人・老年看護学における日本を含む諸外国のケアの制度、サービスシステム、看護の機能について理解する。この科目は、生活環境(病院、施設を含む)、自尊心を含めたケアの選択と意思決定、セルフケア能力の向上、健康問題と生活の特徴に合わせて看護を展開するための理論の理解とその応用によってアセスメント方法、ケア実施での特徴、ケアの効果評価(アウトカム)方法を学ぶ。成人・老年期の健康問題を取り上げ、その研究・実践の課題について探究する。(科目責任者:安藤純子)</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(② 安藤 純子/13回) 成人・老年期における日本(諸外国)のケアの制度、サービスシステム、看護の機能、また身体的・精神的・社会的特徴と経過別看護を担当する。 さらに、看護プロセスからみたケアの効果評価(アウトカム)、先行文献の検討を担当する。</p> <p>(14 穴井 美恵/2回) 慢性期にある老年期の身体的・精神的・社会的な包括アセスメントを担当する。</p>	オムニバス方式
		<p>成人・老年看護学演習</p> <p>(概要) 成人・老年期の健康状態や生活行動能力の向上、悪化防止・維持とQOLの向上を目指して、健康生活行動のレベル、発生しやすい健康問題と生活問題を中心として看護実践の向上とそのための理論や介入のエビデンスを用いて研究への応用能力の修得を目指す。 そのため特論で学修した成人・老年看護学領域における様々な課題を、詳しく研究的に明らかにする中で最も関心の高い課題を探究する。自らの問題意識から演習課題を明確にし、その課題に取り組む。また、模擬授業の計画・実施を通じて教育能力を育成する。(科目責任者:安藤純子)</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (② 安藤 純子 27/回) 文献検討、自己のフィールドワーク課題の明確化し、フィールドワークの指導を行う。模擬授業のための指導案作成、シミュレーション、実施を担当する。</p> <p>(14 穴井 美恵 3/回) 立案した計画案に沿って、フィールドワークでのインタビュー調査、調査対象者の観察、フィールドノート内容に関する指導を担当する。</p>	オムニバス方式
	広域看護学領域	<p>精神看護学特論</p> <p>精神保健看護の枠組みでクライアント(患者・家族・集団・組織・コミュニティ)が自らの精神健康上の課題に気づき、心理的に困難な状況を主体的に乗り越えていくケアシステムの構築をパーパスとする。対象と場を考慮したケアの基盤となる看護理論や関連分野のモデル、概念に対する理解を深め、看護実践・管理、教育、研究の方向性を検討する。また、高い倫理観に基づき、利用者への人権擁護者としての役割を発揮する力を養う。(科目責任者:岩瀬信夫)</p>	共同
	広域看護学領域	<p>精神看護学演習</p> <p>本科目では、メンタルヘルス上の困難を有する対象(患者・家族・集団・職域)に対して、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果をまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した精神看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げる。フィールドワークの課題を明確にし、その課題に取り組む、研究能力、看護実践能力を培う。テーマを取り上げた理由を明確にし、さらに研究的に取り組むながら必要時ゼミ形式で討議し、テーマについて深めながら特別研究Ⅰ、Ⅱに繋げていく。さらに、その一部を取り上げ模擬授業計画を立案し、実施し評価を受けることで教育能力を養う。(科目責任者:岩瀬信夫)</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
広域看護学領域	地域・在宅看護学特論	<p>本科目では、地域看護活動の理論、地域モデル、ヘルスプロモーションの知見にふれ、地域に住む個人と家族、集団、地域全体を対象に多様な健康レベルと地域特性に合わせた望ましいコミュニティヘルスについて探究する。さらに、我が国や世界におけるコミュニティヘルスに関連する様々な支援や課題、コミュニティに対する具体的な支援方法など、視点を絞った文献の講読をするともに地域看護活動について討議する。</p> <p>特に、近年の地域社会を取り巻く環境の変化により生じている差別や偏見、虐待やDV、感染症などの様々な問題状況は、コミュニティヘルスを推進する従来の地域看護活動の考え方だけでは捉えきれず、これらのケアニーズに対応するために新たな枠組みが必要となってきた。このような状況を踏まえ、現代社会で起こっている健康課題を取り上げ、目指すべき地域・在宅看護学の方向性やその研究・看護実践の課題と支援の方略について探求する。(科目責任者:佐久間清美)</p>	共同
	地域・在宅看護学演習	<p>本科目では、地域看護活動を展開するために、効果的な看護援助方法を提供するためのコンサルテーション能力を養い、援助方法を評価するための看護研究方法について検討する。フィールドワークの課題の明確化をふまえて課題を解決するための計画の立案と実施、結果をまとめ、報告書を作成する過程を経験する。具体的には、特論で学修した地域・在宅看護学領域における様々な課題、または関心のあるテーマを掘り下げて研究的に明らかにしながら絞り込み、一つのテーマを取り上げてその理由を明示する。</p> <p>本科目において実施可能なフィールドワークの課題と目的を明確にし、フィールドワークの一連の過程を通して研究能力と看護実践能力の向上を図る。これらの学修過程において、必要時にゼミ形式で討議し、研究課題について深めながら特別研究ⅠⅡに繋げていく。さらに、その一部を取り上げて模擬授業計画を立案、授業の実施とその評価を受けることで、教育能力を培う。(科目責任者:佐久間清美)</p>	共同
	災害看護学特論	<p>世界的規模で激甚災害の発生が常態化しつつある。近年の災害で特筆すべき震災や事件の発生に加えて、大洪水・噴火・猛暑・豪雪などによる災害が相次いでいる。さらに新型コロナウイルス(COVID-19)感染症は世界でパンデミックと化した。このような現状から災害看護の課題を明確にし、ニーズに対応するための新たな知識・技術が必要とされている。かつ、高度な知識・実践技術を有する災害看護の人材育成は必定である。</p> <p>本科目では災害の基礎知識(歴史・定義・種類別の被害・サイクル・行政・法など)を概観し、災害が人々のいのち・心身の健康・暮らし・地域社会に及ぼす影響を理解・考察し、災害全般に渡る健康課題を明確にする。課題を踏まえ研究をもとにした災害看護実践の方略を探究する。</p>	
発展看護学領域	災害看護学演習	<p>本科目では災害看護学特論を基に、質の高い災害看護を実践・提供するための能力を養う。また現在、展開されている災害看護を検証・評価するための研究方法について検討する。具体的には災害看護領域に関する課題と考えられていることや関心のあるテーマを検討し、検討プロセスでは災害看護実践およびコンサルテーション・教育などに関するさまざまな先行研究をクリエイティブに探求する。研究方法の検討に際してはフィールドワークを経験する。フィールドワークでは研究課題を明確にし、災害看護実践力を培う。</p> <p>課題の検討を経て研究テーマを絞り込み、研究を計画し、ゼミにおいて討論を重ね深めつつ研究としてまとめる。研究過程において災害看護教育に関する模擬授業を計画・立案し、実施を経て評価を受けることで教育・指導能力を養う。研究の一環として災害看護関連の学会・研究会などに参加し、新たな知見を獲得し研究に繋げる。</p>	
	看護管理学特論	<p>看護管理の基本となる諸理論と看護管理プロセスを学修し、効果的な看護管理の在り方について探究する。</p> <p>看護管理を実践する際に求められる組織管理と看護サービスの質管理に焦点を当て、近年の動向を探り、管理の在り方について探究する。組織を把握するためのデータをSWOTクロス分析、マッキンゼー7Sなどの枠組みを参考に収集し、組織分析を行う。分析結果をもとに、変革理論に基づいて多職種と連携して組織変革を行うための計画を立案する。これらを実践するための基盤となる「人材管理・育成」について看護管理者のメンター的な役割の在り方、キャリアマネジメントの在り方、さらに臨床における組織倫理について文献検討から追求する。</p> <p>これらの学修課程において討議、ディスカッション、交渉、効果的なプレゼンテーションなどのスキルを養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 発展看護学領域	看護管理学演習	<p>本科目では、看護管理学特論の学修内容をベースとして各自が実践してきた領域の臨床実践および教育上の課題を追求し、問題の所在を明らかにするための文献検討およびフィールドワーク、事例分析を行う。</p> <p>研究計画書を作成し、研究課題 Research Questionを明確にするためには、既存の研究に精通することが重要である。それぞれのテーマについて、フィールドワークによる成果と文献クリティークによって課題と方法論を検討する。</p> <p>さらに、既習の理論を応用して、各自の抱える看護管理・看護教育上の課題を分析し、課題を追求するための基礎資料を作成する。</p>	
	看護教育学特論	<p>本科目は、看護学教育において、保健師、助産師、看護師の資格取得までの看護基礎教育と卒後教育、その後の継続教育、さらには、看護職者に必要な生涯学習の現状と考え方を理解するものである。社会情勢に基づく看護職の育成のニーズは、保健師助産師看護師法、学校養成所指定規則と密接に関わる。審議会や検討会といった意見の集約である教育に関する報告書やガイドラインなどを読む機会を提供し、看護学教育への影響について考える。</p> <p>本科目では、看護学教育において、教育的役割を果たすための基盤となる知識の獲得を目指す。特に、看護基礎教育のカリキュラム作成、カリキュラム評価の考え方を理解する。これらによって看護学教育の本質の理解を促し、看護学教育演習に臨むための基盤を作る。</p>	
	看護教育学演習	<p>本科目は、学校養成所における保健師、助産師、看護師の資格取得までの看護基礎教育の現場や、大学院、専門施設での卒後教育、病院施設での継続教育の現場など、課題追求に関わる現場に赴いて、教育の目的と現状を理解し、さらには模擬授業を行うことで教育を体験することを期待するものである。さらに、これらの体験を通して看護学教育に関わる研究的なテーマを見出し、追求するための基盤を作ることを課題とする。具体的には、文献検討およびフィールドワークを通して、テーマの精選を行い、研究計画書の作成に必要な現状把握と課題の見出しを行う。</p>	
特別研究	特別研究 I	<p>(概要)</p> <p>本科目では専攻する専門看護学における各自の研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。修士論文作成にあたり、研究論文を作成する基礎となる力を養う。研究のプロセスを理解し、自らがテーマにフォーカスし、研究としての枠組みを明確にする。さらに、研究疑問、研究目的を明らかにするためにふさわしい研究方法を決定し、研究対象の問いをもって明確にし、研究対象にどのようなプロセスでたどり着くのかの道筋をつくる。倫理的な配慮を行いながら研究計画書作成に繋げる。</p> <p>(1 清水 嘉子)</p> <p>母性・助産看護学(子育て支援、コペアレンティング、出産時の看護、助産師教育等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(2 白鳥 さつき)</p> <p>看護管理学(看護の本質の探究、看護技術の科学的検証、専門職としての看護の課題、組織論と組織変革、看護サービスの質保証等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(① 白井 千津)</p> <p>災害看護学(災害サイクルと実践、緊急支援活動、場における看護、他職種連携、被災者および救援者の心身の反応とケア、予防教育・訓練等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(4 金城 やす子)</p> <p>小児看護学(保育保健、医療保育、保育園看護、小児看護学教育等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(② 安藤 純子)</p> <p>成人・老年看護学(認知症高齢者看護、在宅高齢者看護、サロン活用支援等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書の作成の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究 I	<p>(6 岩瀬 信夫) 精神看護学(セルフケア行動、症状マネジメント、自立支援、家族支援等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(7 佐久間 清美) 地域・在宅看護学(公衆衛生看護、保健師活動、保健師教育等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(8 青山 温子) 低所得国における生活習慣病リスク因子、生活習慣病の予防対策と健康教育、開発途上国の保健医療政策とシステム、ジェンダーと健康、国際開発援助の効果等に関連した看護学的視点からテーマを絞り込み、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。看護近接領域としての国際看護学・国際保健医療学の観点からアプローチし、看護の探究に貢献する。</p> <p>(9 永井 邦芳) 精神看護学(客観的精神機能評価、精神障害者の地域移行支援、精神障害者家族支援等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(10 藤丸 郁代) 地域・在宅看護学(生活習慣、一次予防、地域保健活動等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(11 西出(黒部) りつ子) 地域・在宅看護学(母子保健、小児肥満、早期小児う蝕、地域連携等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(12 五十里 明) 結核対策、公衆衛生活動、保健医療福祉政策等に関連した看護学的視点からテーマを絞り込み、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。看護近接領域としての保健衛生行政学の観点からアプローチし、看護の探究に貢献する。</p> <p>(13 平賀元美) 看護教育学(看護学生の臨地実習の実習満足度とストレス対処力、模擬患者を導入したシミュレーション教育における学生の認識、臨地実習における看護師の実習指導行動等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。</p> <p>(14 穴井 美恵) 成人・老年看護学(高齢者の食行動・咀嚼・口腔機能向上、高齢者の聞こえ等)に関連したテーマの絞り込みから、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書の作成の指導を行う。</p> <p>(15 石井 健一朗) がん薬物治療におけるドラッグ・リポジショニング、がん微小環境のバイオロジー、がん新規診断法の開発等に関連した看護学的視点からテーマを絞り込み、研究方法を明確にし、倫理的な配慮に基づいた研究計画書作成の指導を行う。看護近接領域としての生理・病態学の観点からアプローチし、看護の探究に貢献する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究Ⅱ	<p>(概要) 本科目では特別研究Ⅰに引き続き、専攻する専門看護学における各自の研究課題を明確にし研究論文を完成する力を養う。研究倫理審査委員会における倫理審査を経て研究計画書に基づいて調査・実験を推進する力を培うとともに、結果を分析・考察する力を身につけ、看護に貢献しうる論文を完成させる。論文審査に対する指摘事項に対する対応力や発表する力、質疑応答力を培い論文の課題や発展的な課題を明確にし、さらに研究を発信する力を身につける。</p> <p>(1 清水 嘉子) 母性・助産看護学(子育て支援、コペアレンティング、出産時の看護、助産師教育等)における看護課題を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(2 白鳥 さつき) 看護管理学(看護の本質の探究、看護技術の科学的検証、専門職としての看護の課題、組織論と組織変革、看護サービスの質保証等)における看護課題を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(① 白井 千津) 災害看護学(災害サイクルと実践、緊急支援活動、場における看護、他職種連携、被災者および救援者の心身の反応とケア、予防教育・訓練等)における看護課題を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(4 金城 やす子) 小児看護学(保育保健、医療保育、保育園看護、小児看護学教育等)における看護課題を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(② 安藤 純子) 成人・老年看護学(認知症高齢者看護、在宅高齢者看護、サロン活用支援等)における看護現象を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(6 岩瀬 信夫) 精神看護学(セルフケア行動、症状マネジメント、自立支援、家族支援等)における看護現象を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(7 佐久間 清美) 地域・在宅看護学(公衆衛生看護、保健師活動、保健師教育等)における看護現象を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(8 青山 温子) 低中所得国における生活習慣病リスク因子、生活習慣病の予防対策と健康教育、開発途上国の保健医療政策とシステム、ジェンダーと健康、国際開発援助の効果等)における課題から研究へと看護に引き寄せながら論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(9 永井 邦芳) 精神看護学(客観的精神機能評価、精神障害者の地域移行支援、精神障害者家族支援等)における看護課題を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(10 藤丸 郁代) 地域・在宅看護学(生活習慣、一次予防、地域保健活動等)における看護課題を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(11 西出(黒部) りつ子) 地域・在宅看護学(母子保健、小児肥満、早期小児う蝕、地域連携等)における看護課題を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	特別研究Ⅱ	<p>(12 五十里 明) 結核対策、公衆衛生活動、保健医療福祉政策等における課題から看護に引き寄せながら研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(13 平賀元美) 看護教育学(看護学生の臨地実習の実習満足度とストレス対処力、模擬患者を導入したシミュレーション教育における学生の認識、臨地実習における看護師の実習指導行動等)における看護課題を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(14 穴井 美恵) 成人・老年看護学(高齢者の食行動・咀嚼・口腔機能向上、高齢者の聞こえ等)における看護現象を研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p> <p>(15 石井 健一朗) がん薬物治療におけるドラッグ・リポジショニング、がん微小環境のバイオリジー、がん新規診断法の開発等における課題から看護に引き寄せながら研究へと論理的に探究できる力を養い、専門分野から具体的な研究指導を行う。</p>	

学校法人中西学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
名古屋外国語大学			
外国語学部	3年次		
英米語学科	400	-	1,600
英語教育学科	0	-	0
フランス語学科	75	-	300
中国語学科	65	-	260
日本語学科	0	-	0
世界教養学科	0	-	0
現代国際学部			
グローバルビジネス学科	99	-	396
現代英語学科	100	-	400
国際教養学科	100	-	400
世界共生学部			
世界共生学科	100	-	400
世界教養学部			
世界教養学科	100	-	400
国際日本学科	60	-	240
留学生別科	40	-	40
計	1,139	-	4,436
名古屋外国語大学大学院			
国際コミュニケーション研究科			
国際コミュニケーション専攻(M)	20	-	40
国際コミュニケーション専攻(D)	5	-	15
計	25	-	55
名古屋学芸大学			
管理栄養学部			
管理栄養学科	160	-	640
メディア造形学部			
映像メディア学科	120	-	480
デザイン学科	90	-	360
ファッション造形学科	60	-	240
ヒューマンケア学部			
子どもケア学科	220	-	880
看護学部			
看護学科	100	-	400
別科助産学専攻	25	-	25
計	775	-	3,025
名古屋学芸大学大学院			
栄養科学研究科			
栄養科学専攻(M)	5	-	10
栄養科学専攻(D)	2	-	6
メディア造形研究科			
メディア造形専攻(M)	5	-	10
子どもケア研究科			
子どもケア専攻(M)	5	-	10
看護学研究科			
看護学専攻(M)	6	-	12
計	17	-	36
名古屋ファッション専門学校			
テクニカルクリエーション科	40	-	120
ファッション流通科	80	-	160
名古屋栄養専門学校			
食物栄養科	90	-	180
名古屋製菓専門学校			
洋菓子科	120	-	240
製パン科	40	-	40
計	370	-	740

令和5年度

入学 編入学 収容
定員 定員 定員

変更の事由

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋外国語大学				
外国語学部	3年次			
英米語学科	400	-	1,600	
英語教育学科	0	-	0	
フランス語学科	75	-	300	
中国語学科	65	-	260	
日本語学科	0	-	0	
世界教養学科	0	-	0	
現代国際学部				
グローバルビジネス学科	99	-	396	
現代英語学科	100	-	400	
国際教養学科	100	-	400	
世界共生学部				
世界共生学科	100	-	400	
世界教養学部				
世界教養学科	100	-	400	
国際日本学科	60	-	240	
留学生別科	40	-	40	
計	1,139	-	4,436	
名古屋外国語大学大学院				
国際コミュニケーション研究科				
国際コミュニケーション専攻(M)	20	-	40	
国際コミュニケーション専攻(D)	5	-	15	
計	25	-	55	
名古屋学芸大学				
管理栄養学部				
管理栄養学科	160	-	640	
メディア造形学部				
映像メディア学科	120	-	480	
デザイン学科	90	-	360	
ファッション造形学科	60	-	240	
ヒューマンケア学部				
子どもケア学科	220	-	880	
看護学部				
看護学科	100	-	400	
別科助産学専攻	25	-	25	
計	775	-	3,025	
名古屋学芸大学大学院				
栄養科学研究科				
栄養科学専攻(M)	5	-	10	
栄養科学専攻(D)	2	-	6	
メディア造形研究科				
メディア造形専攻(M)	5	-	10	
子どもケア研究科				
子どもケア専攻(M)	5	-	10	
看護学研究科				研究科の設置(認可申請)
看護学専攻(M)	6	-	12	
計	23	-	48	
名古屋ファッション専門学校				
テクニカルクリエーション科	40	-	120	
ファッション流通科	80	-	160	
名古屋栄養専門学校				
食物栄養科	90	-	180	
名古屋製菓専門学校				
洋菓子技術マスター科	120	-	240	
製パン科	40	-	40	
計	370	-	740	